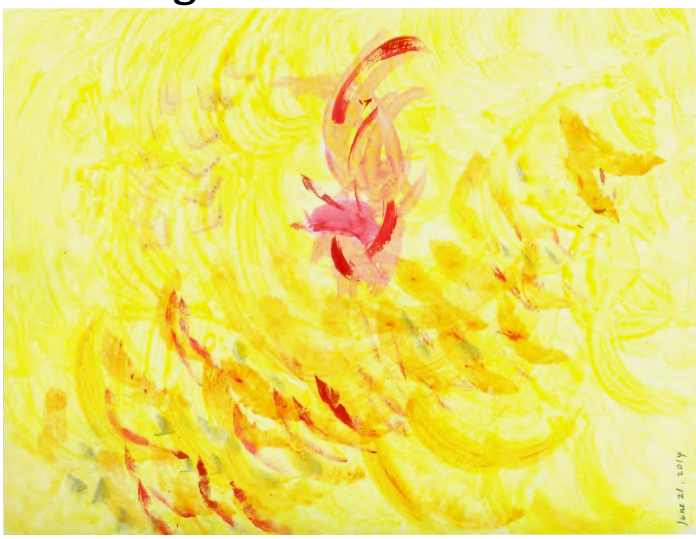
月刊 名大文学部

第 99 号

発行：名古屋大学文学部
広報体制委員会
koho@hum.nagoya-u.ac.jp

教員コラム―No.97

Thinking Outside the Box －囚われに気づくための学問



長山　智香子（日本文化学）

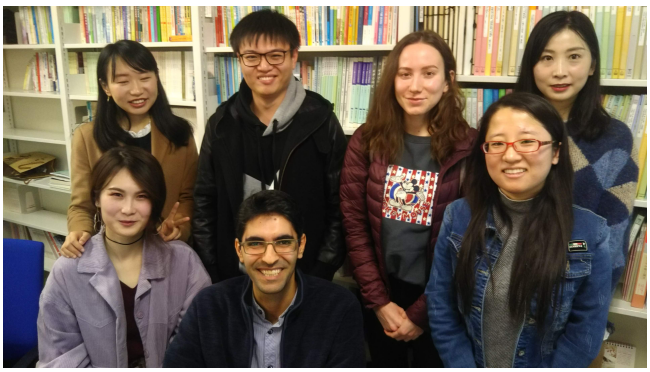
風変わりな家族に育てられたので，高校生の時はフツーの大人になりたい，サラリーマンになろうと思ったこともありました。矛盾するようですが，出会った友人たちがとても個性的に見えて，「自分もあんな風にカッコよくなりたい」と苦しかった時期もあります。とにかく海外に出たい一心で，カナダの博士課程に留学したのが 27 歳。大学院を終えた後も永住権を取って残る気満々でしたが，いくら応募しても安定した仕事にありつけず，日本で常勤の仕事が見つかって戻ってきました。この時点で日本を出てから 16 年余りが経過。人や街から学んだこと，孤独に苛まれる中で映画，芸術や音楽に出会い直したことがいまの学問的探求に繋がっていると思います。気がついたらすっかり「フツーの人」ではなくなっていました。「カッコよくなりたい」欲望は一生付いて回るかも，だけど。

その時々で悩み苦しんでいたごく私的に見える問題の起源や原因がどこにあるのか，社会的，歴史的に探求した軌跡が研究テーマに反映されてきました。具体的には，政府や法的権威，知識人による言論と映画や音楽などの大衆文化について調べて，私たちを拘束しがちな，社会の無言のルールや思い込みがどこから来たのか，もしそれらのルールを書き換える方法があるなら何なのか，考えています。「運が悪かった」，「もっと頑張らなくちゃ」って乗り越えようとしても，心理的小細工で余計に苦しくなるし，実は同じ問題を経験する人が私以外に何人もいたら？根っこは滅びずに次に苦しむ人たちを生み出すんじゃないか…。「個人的なことは政治的である」（the personal is political）というフェミニズムの標語に啓発され，上野千鶴子，江原由美子，ミシェル・フーコー，ジュディス・バトラーらの著作を読んだことが今に繋がっています。

（画像は『Summer Fish』（2014）、著者がカナダで描いた作品）

分野・専門紹介―File38

日本語の教師をめざして



分野・専門名：日本語教育学

私は M1 のミニグロワ・ロザリアです。ロシアの極東連邦大学の日本語学科に入学してはじめて日本語に触れました。大学を卒業してから日本の大学で日本語の知識を深めようと思ったのがきっかけで名古屋大学の人文学研究科に入学しました。

本分野には５人の先生がいて，日本語の文法や日本語教授法，日常会話の分析，統計を利用した分析など，様々な勉強ができます。日本語を見る視野を広げることもできるし，皆さんの研究分野の範囲も広げられます。講義の形の授業もありますが，学生が主体として行われるゼミの授業もあります。ゼミでは自分の研究について発表して，先生や他の学生から問題点を指摘

してもらい，アドバイスや意見を聞くことができます。

大学生と大学院生の一番異なる点は，自ら勉強する時間がかなり多くなるということです。修士号をめざす博士前期課程は二年という短い時間の間に結果を出さなければいけないので，自習を基に自分が述べたいことを進めないといけません。一方，同級生や先輩たちと交流する時間も大事です。研究に対するアドバイスを交わしたり，一緒に旅行に行って自分の考えを整理したり，グループを作って勉強会をしたりしてレベルアップできるので，大学院生活で人間関係も大事なことです。

日本語の勉強が必要である学習者の日本語の先生になりたいとい思っている方は，ぜひ夢に向かって大学院の日本語教育学分野に進学していただきたいです。外国人の学生も多いので，他の国の文化を理解したうえで，より深い研究を進めることができます。今はまず，大学の入学試験を頑張って，その後，研究者として大学院への進学も考えてみてください。　（ミニグロワ・ロザリア・博士前期課程 1 年）

分野・専門紹介―File39

美術史を学ぶ（授業名：「美学美術史学実習」）

分野・専門名：美学美術史学

美術史学研究では，自分の目で作品を見るという経験が何よりも重視されます。そのため，私たちの専攻では，隔週に一度のペースで近隣の美術館や博物館を訪れて展覧会を見に行く授業があるほか，年に 1，2 回，京都や奈良をはじめ，遠方の神社や仏閣，美術館にも，授業の一環として見学に訪れます。

コレッジョの作品が残るパルマの修道院

私は，華やかなイタリア・ルネサンスの美術に魅せられて，大学院では，レオナルド・ダ・ヴィンチやラファエッロの影響を受けながらも独自の絵画様式をつくり上げた，アントニオ・アッレグリ・ダ・コレッジョ（1489 -1534 年）という画家のことを研究しました。修道院の聖堂や街の大聖堂のドームに描かれたコレッジョの絵を見るために，何度も，イタリアに足を運びました。画集を見ていた時にはわからなかったのですが，現地で天井画を眺めると，立つ位置によって，見ることのできる人物やモチーフが切り換わること，つまり，見る人の視線を利用して，コレッジョが絵画の中の世界を動かそうとした工夫に気づきました。教会の窓から入ってくる太陽の光の具合，その空間で行われるミサの儀式や，典礼の音楽，人々の祈りの言葉によって，絵の印象は全く異なることも知りました。

直接作品と出会ったときに，いろいろな情報を引き出せるように，ふだんは地道に文献と向き合い，先行研究の現状やその問題点を把握する作業が必要になります。現在までに蓄積された膨大な研究に触れながら，同じことに関心をもったさまざまな国や時代の研究者と本を通して出会えることもまた，人文学研究の魅力の一つだと思います。　（百合草　真理子・特任助教）

最近の文学部

意外と長い大学の春休み（？）

この誌面を編集中の 2 月中旬は，学期末試験，卒論口頭試問，院試も終わり，文学部棟で見かける学生の数が激変します。3 月下旬の新年度オリエンテーションまでの一月あまり。春，でなく「冬休み第 2 弾」が正確かもしれません。（YK）

＊本紙では，名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが，それまで待てない人は…
名大文学部の WEB サイト　https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/　まで（『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります）